

F-8 栄養摂取から見た食料費の経済性の検討 (第1報)

福岡県社会保育短大 ○出石 康子
松田紀美子

1. 食料費の経済性を検討する科学的な方法が手近にないために、その用途を合理的なものにする積極的な努

力がしにくく、かつ現今のごとく食品の価格の不安定な時には、これに対応した自分の家庭にふさわしい食料費を予想することは、むづかしい仕事となってくる。演者等は栄養管理における Rose 博士の share system の考えを費用の面に拡張して、食料費の経済性を検討する簡便な試案を得たので報告し、御批判と御指導をえてよりよいものとして、実生活に役立てたいと思う。

2. 1) 栄養量をあらわす点を定めた。1点の実数は、熱量：100Cal., たん白質：1g, 脂質：1g, カルシウム：10mg, ビタミンA：100 I. U., ビタミンC：1mgである。

2) 次に各栄養素1点の価格から見た、標準価値係数を算出した。熱量：2.3, たん白質：1.0, 脂質：0.3, カルシウム：0.4, ビタミンA：1.8, ビタミンC：0.9である。

3) この係数を用いて各食品の標準価値数を算出し、市販価格との関係を図に表わし、経済性の検討を容易にした。

3. 上記表の使用によって、食料費の経済性の検討はもとより、食料費や食品の価格の変動に即応して、食品の種類と量を正しく容易に選定出来る。